

郵便

明治六年第一月



新聞

新貨三錢

第卅二號



東京横山町三丁目

太田金右衛門



門 8
號 407
卷 13

凡例

遠近の人民互に性情よく相通し事理よく互達するは新聞紙の如し
 奇故の西洋諸國苟も文明の名あるは地を以て心を通ず新聞紙の如し
 ありて國內國外を論せざれば九百の事務を網羅 併せて奇事異聞瑣
 語常談を采用して日刊し月刊し年刊し博考を存し幾人の家
 喻戸曉小説を以て概あはれ國人甚だこれ便せり今爰に郵信
 此新聞を刊行するも度々遠近の可成我々大いに内情を達し善
 古今の變を知りめいて世に裨益ありんば致すも亦善 概水の
 氷成見て天下の寒を知るべし此の冊子と云ふもの亦當今之世情の
 斑を窺ふべし

郵便報知新聞第廿二號 明治六年癸酉第一月

○今般改曆ニ付人日人日上巳上巳端午端午七夕七夕重陽重陽ノ五節句ヲ廢
 し神武天皇即位日天長節兩日ヲ以自今祝日ト被定候
 事明治六癸酉一月四日御布令アリ

神武天皇即位一月廿九日

天長節十一月十一日

○今般全國募兵ノ儀別紙 詔書ノ通り被 仰出徵兵
 令被相定ハ條各 御趣意ヲ奉載ハ末々ニ至ル迄不渡
 様布達可致總ジテ細大ノ事件ハ陸軍海軍兩省へ打合

可申此旨相達事

但徵兵令及徵募期限、追テ可相達事

右壬申十一月廿八日御布令アリ

○詔書寫

朕惟ルニ古昔郡縣ノ制全國ノ丁壯ヲ募リ軍團ヲ設ケ以テ國家ヲ保護ス固ヨリ兵農ノ分ニ中世以降兵權武門ニ歸シ兵農始テ分レ遂ニ封建ノ治ヲ成ス戊辰ノ一新ハ實ニ千餘年来ノ一大變革ナリ此際ニ當リ海陸兵制ノ亦時ニ從シ官ヲ制セザルベカラズ今本邦古昔ノ制ニ基テ海外各國ノ式ヲ斟酌シ全國募兵ノ法ヲ

設ケ國家保護ノ基ヲ立ント欲ス汝百官有司厚ク朕ガ意ヲ體シ普ク之ヲ全國ニ告諭セヨ

明治五年壬申十一月廿八日

○徵兵告諭

我

朝上古ノ制海内舉テ兵ヲラガルハナシ有事ノ日天子之ガ元帥トナリ丁壯兵役ヲ堪ユル者ヲ募リ以テ不服ヲ征ス役ヲ解キ家ニ歸レハ農タリエタリ又高賈タリ固ヨリ後世ノ雙刃ヲ帶ビ武士ト稱シ抗顔坐食シ甚シキニ至テハ人ヲ殺シ官其罪ヲ問ハガル者ノ如キ

ニ非ズ抑

神武天皇珍彦ヲ以テ葛城ノ國造トナセシヨリ爾後軍
 團ヲ設ケ衛士防人ノ制ヲ定メ神龜天平ノ際ニ至リ六
 府ニ鎮メ設ケ始テ備ハル保元平治以後朝綱頹弛兵權
 終ニ武門ノ手ニ墜テ國ハ封建ノ勢ヲ為シ人ハ兵農ノ
 別ヲ為ス降テ後世ニ至リ名分全ク泯没シ其弊勝テ言
 フ可カラズ然ルニ太政維新列藩版圖ヲ奉還シ辛未ノ
 歳ニ及ヒ遠ク郡縣ノ古ニ復ク世襲坐食ノ士ハ其祿ヲ
 減ジ刀劍ヲ脱スルヲ許シ四民漸ク自由ノ權ヲ得セシ
 メントス是レ上下ヲ平均シ人權ヲ齊一ニスル道ニレ

テ則チ兵農ヲ合一ニスル基ナリ是ニ於テ士ハ従前ノ
 士ニ非ズ民ハ従前ノ民ニアラズ均レク皇國一般ノ
 民ニシテ國ニ報ズルノ道モ固ヨリ其別ナカルベシ凡
 ソ天地ノ間一事一物トシテ稅非ザルハナシ以テ國用
 ニ充ツ然ラバ則チ人タルモノ固ヨリ心カヲ尽シ國ニ
 報ゼザルベカラズ西人之ヲ稱シテ血稅ト云フ其生血
 ヲ以テ國ニ報ズルノ謂ナリ且國家ニ災害アレバ人々
 其災害ノ一分ヲ受ザルヲ得ズ是故ニ人々心カヲ尽シ
 國家ノ災害ヲ防グハ則チ自己ノ災害ヲ防グノ基タル
 ヲ知ルベシ苟モ國アレバ則チ兵備アリ兵備アレハ則

チ人々其役ニ就カザルヲ得ズ是ニ由テ之ヲ觀レバ民
兵ノ法タル固ヨリ天然ノ理ニシテ偶然作意ノ法ニ非
ズ然而シテ其制ノ如キハ古今ヲ斟酌シ時ト宜ヲ制セ
ザルベカラズ西洋諸國數百年來研究實踐以テ兵制ヲ
定ム故ヲ以テ其法極メテ精密ナリ然レバ改體地理ノ
異ナル悉ク之ヲ用フベカラズ故ニ今其長ズル所ヲ取
リ古昔ノ軍制ヲ補ヒ海陸二軍ヲ備ヘ全國四民男兒二
十歳ニ至ル者ハ尽ク兵籍ニ編入シ以テ緩急ノ用ニ備
フベシ郷長里正厚ク此御趣意ヲ奉ジ徵兵令ニ依リ民
庶ヲ説諭シ國家保護ノ大本ヲ知ラシムベキモノ也

明治五年壬申十一月廿八日

○自今休暇老ノ通被定ト事

一月一日ヨリ三日迄 六月廿八日ヨリ三十日迄

十二月廿九日ヨリ三十一日迄

毎月休暇是迄ノ通

但大ノ月三十一日ハ休暇ニアラズ

右一月七日御布令アリ

○小田縣より報知

管下窪屋郡溝口村農間野勇三郎妻千代々迄來夫勇三
郎貧苦ふ迫り殊ニ難病みて全身不隨なるを日夜の叡

把百方手段、一省病乃暇家業を励と老母及び義弟へ
 對し常は甚孝女ふして傍より二人の幼兒を撫育し一
 家能く和し其貞操信実隣里郷黨感歎せざるな 縣廳
 より褒賞ありて若干の金を賜りたりと嗟田家實操敦
 厚乃風真に嘉賞をべし

○山形縣郵便掛より報知し管内道路田畔の傍より湯
 殿山の供養石其他神仏の名号は彫付たる石像塔婆乃
 類等縣廳より嚴令ありて去月中悉く皆取除きたり

○西京市街みては本月一日改替を祝もくとて家毎幕
 を張り軒先へ提灯を掲げ春光を迎へたりといふ

○岡山縣より報知

管下區々小學の設けありて女子男兒皆八歳より學
 就くの方法を立つ就中静溪の學校も昔時より有名ふ
 して有志の徒相共は再興の企ありし縣下寄留使四
 位池田君出金して其費を助く其諭告文一則あり

○備前國和氣郡静溪の山水秀麗ふして閑雅幽邃真
 画が如し而も最も觀る不足るをける學校の設けあり
 講堂廊廓衙署巍然として今尚存せり抑封建世祿の世
 祖先芳烈此國土を守り此士民を養ふに専ら文教を盛
 めりて人情を厚りし風俗を美ます然るも凶穢の久

き人情風俗浮薄輕躁ふたふたふくと學校の設け殆ど虚飾文具
 ふ属せり今也 大政一変予此縣に寄寓し地方の政蹟
 と察するに風俗の厚薄人民の勤惰を以て治乱強弱の
 関する所とす學校の教を重んず邑は不學の戸ふるく
 家不學の子女あるに其期を故に人々學問を身と立て
 産と治免業を昌あきらふまざるに理を曉り自ら金穀を投し
 區々村々小學の費は供せんとも今又聞く有志の徒靜
 溪校を開くの舉ありと嗚呼 王政善良の致す所歟抑
 人情風俗敦厚の然りしむる所歟予の悦何物り如し如
 人況や祖先芳烈を以て知る所ありむれば其次は如何

ぞ哉依て聊を分ち金二十円右函校に費の一端に備へ
 んとけ夫人民の子弟虚飾浮躁の心を去り閑雅幽邃の
 學校に入り名師に従ひ身を脩め智を閑き才藝を長む
 るは必然なるべし予其開化王民の中は寄寓し聊を餘
 年を樂んとす是平日の志願あり

○在英官吏某より田邊某へ來書の抄
 兼て御承知候哉不存以得共清國にてハ雲南一省獨立
 致し十七年前より中朝の號令を奉ぜば文秀と云ふ者
 と擁して國王と為し此度鄰國緬甸に依頼し使節を西
 洋各國へ差出せり既先頃迄も当府にも衆在一の獨

立國と被認まかひ様子即今いまる東方の維也納ウィーン赴おもむき通信つうしんの
談判だんぱんも及およぶるよよ云々

○柏崎縣より報知

同縣士族岩佐八十八宅へ去月十四日夜十二時頃賊忍
へり熟睡じゆく乃八十八を大身槍おほしんじやうを以て左の乳下ちのちより脊せに
掛かく突通つとしり八十八傷手しやうて小屈こくつせを飛起とびたげれば賊ハ
忍にち遁出にげせり八十八自みづかり其槍しやうを拔ひくと虽なも其身み鉄石てつせき
ふ何なにくざもば終はる戶外かどに絶倒たつたせり縣廳けんていより速すみに捕亡とら
手て致いた差向さむかひ嚴げんに探索たんさくせりと虽なも賊あ乃な踪跡そうせき未など手掛てがりな
きよ

○概論新聞紙上説

青柳某翁と云ふ人あり挽近ばんきん世上じやうじやうに流布りゆうふする所の新聞
紙類しるいを數多かずた集あり得えて日々文明ぶんめいよく通覽つうらんして樂たのし
が頃ころ日ひ慨然がいぜんと歎息たんそくして曰い嗚呼ああ此の文明の御代ごだいに當あて
斯かの如ごとき虚種きよしゆの新聞紙しんぶんしを閱よむる小過せうか半はんを皆みな虚説きよせつら
くして実説じつせつ少すくし虽然しかん今日けふ開化けいか進歩しんぷを以て主しゆとせれば
虚説きよせつと虽なも虚きよをさざれば実説じつせつの有名無実ゆうめいむじつに勝かせりと
其勝かちれる所以ゆゑを推究すいけうするに虚きよ乃な虚きよをさざる文明
乃な文明ぶんめいたる基もとを閑ひらき教化けうかの一助いちしゆともおろん欵譬けんぱへバ
末寸まへすんの話わを聞きて咫せき尺せき不及ふく或あるは話わをべき話わも秘ひ

て語々ざはも探り得る新聞に著きとも開化と國政と
小妨害なき成以て好とをれど摺乃樹乃弥繼嗣爾佐比
豆留夜辛確登人の云麻傳は何事も文明がより一話
も真偽乃別あり新聞に揭示して人民の知識を開きた
きと此形りと云ふ者も葦原の邦臣泉記す

○大分縣管下人民蜂起一十二月朔日市在人家六十軒
打崩一縣廳へ迫り官員四五名小疵を負せ徒黨の人数
凡四万人に及び小由昨夜四時頃小倉より郵便にて報
知致小旨本月九日宮中電信局より御届あり
報知新聞第卅二號終

○郵便没書 没書とは長谷の誤りか分るるも或
る届け先の者舉家轉住し又る差出し
人名前のとふじ地名誤りか
庚一方をもじりかとき郵便届状を云ふ

大分縣 矢部千太郎様 同人宿	大分縣 丹後屋弥助様 度 沢 伊 助	大分縣 平田 东 助 様 沼 田 倉 長 三 郎	大分縣 別府 二郎 様 兵 庫 港	大分縣 小林 屋 文 助 様 系 屋 十 郎	大分縣 鳥井 浅 次 郎 様 水 井 勇 次 郎	大分縣 伊 藤 吉 住 様 速 藤 五 郎	大分縣 大 長 権 助 様 福 妻 院	大分縣 情 地 津 高 平 様 越 後 屋 仙 助	大分縣 大 和 屋 治 平 様 井 清	大分縣 美 濃 屋 八 郎 百 代 様 玉 屋 屋 長 三 郎	大分縣 天 満 屋 治 平 様 倉 倉 屋 治 平 様	大分縣 丸 田 建 吾 様 國 信 洋 子	大分縣 大 和 屋 治 平 様 富 田 屋 治 平 様	大分縣 大 和 屋 治 平 様 志 雄	大分縣 大 和 屋 治 平 様 越 後 屋 仙 助
----------------------	--------------------------	--------------------------------	-------------------------	------------------------------	--------------------------------	-----------------------------	---------------------------	---------------------------------	---------------------------	---------------------------------------	-----------------------------------	-----------------------------	-----------------------------------	---------------------------	---------------------------------

東本寺... 西本寺... 本寺...

泉屋... 泉屋... 泉屋...

大坂... 大坂... 大坂...

井上... 井上... 井上...

大坂... 大坂... 大坂...

大坂... 大坂... 大坂...

大坂... 大坂... 大坂...

大坂... 大坂... 大坂...

大坂... 大坂... 大坂...

大坂... 大坂... 大坂...

大坂... 大坂... 大坂...

川波... 川波... 川波...

高橋... 高橋... 高橋...

向中... 向中... 向中...

鈴木... 鈴木... 鈴木...

高橋... 高橋... 高橋...

高橋... 高橋... 高橋...

高橋... 高橋... 高橋...

高橋... 高橋... 高橋...

高橋... 高橋... 高橋...

高橋... 高橋... 高橋...

高橋... 高橋... 高橋...

近江... 近江... 近江...

入加... 入加... 入加...

和田... 和田... 和田...

武藏... 武藏... 武藏...

三島... 三島... 三島...

橋井... 橋井... 橋井...

三島... 三島... 三島...

三島... 三島... 三島...

三島... 三島... 三島...

三島... 三島... 三島...

三島... 三島... 三島...

紅屋... 紅屋... 紅屋...

柴田... 柴田... 柴田...

石川... 石川... 石川...

廣瀬... 廣瀬... 廣瀬...

吉田... 吉田... 吉田...

吉田... 吉田... 吉田...

吉田... 吉田... 吉田...

吉田... 吉田... 吉田...

吉田... 吉田... 吉田...

吉田... 吉田... 吉田...

吉田... 吉田... 吉田...

